

01

突針

※ JIS A 4201:1992 の規定に基づく

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

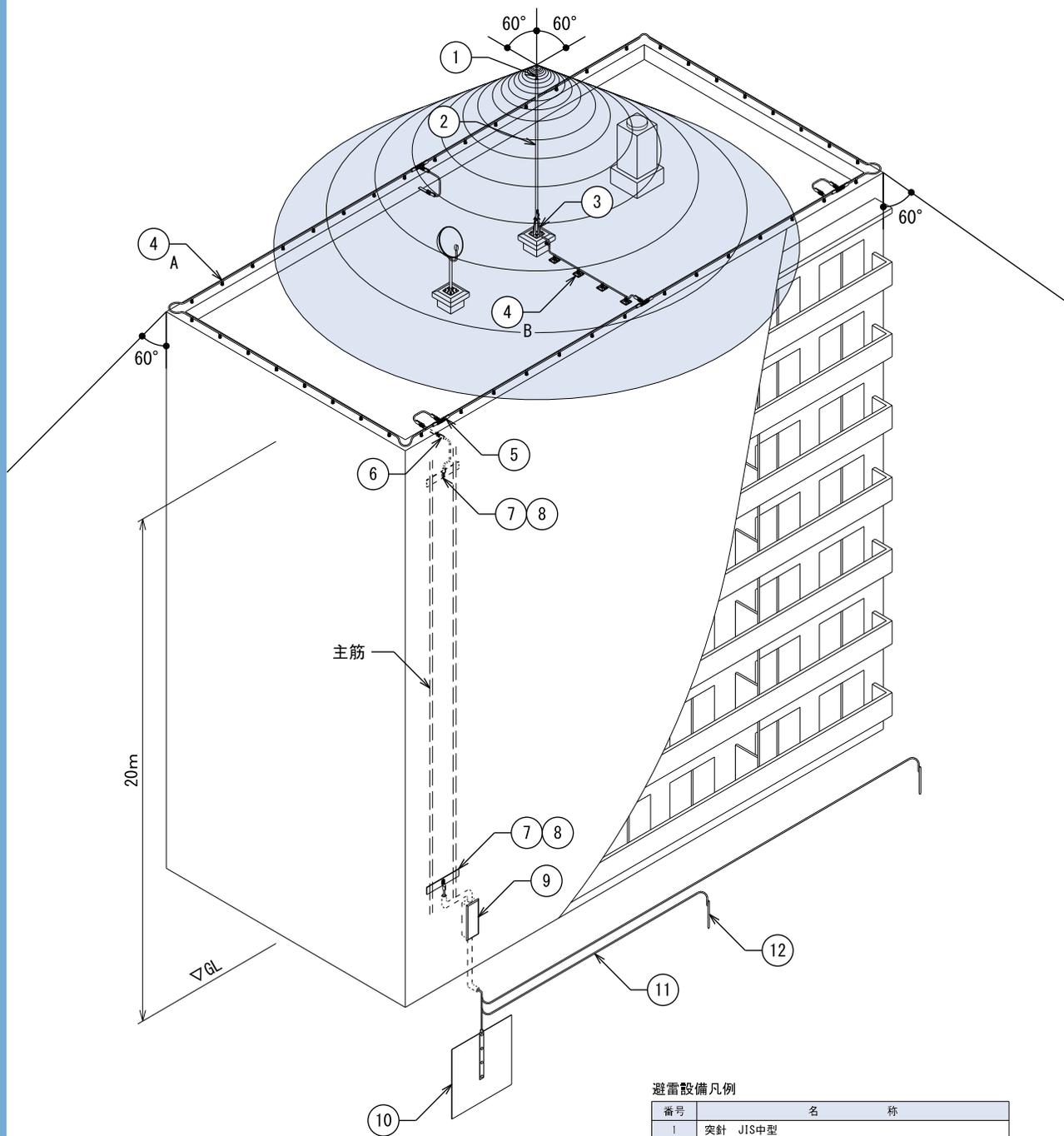
雑材料

06

附属資料

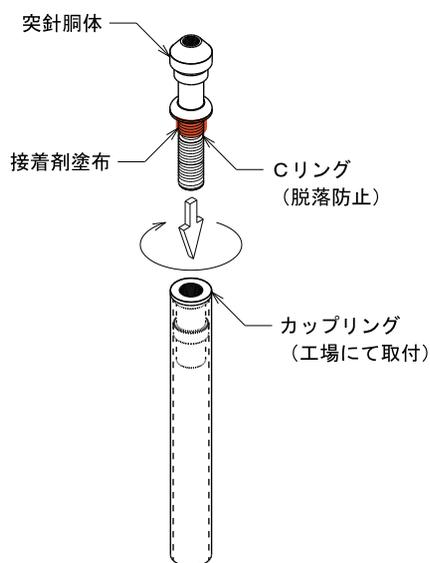
07

施工参考例



避雷設備凡例

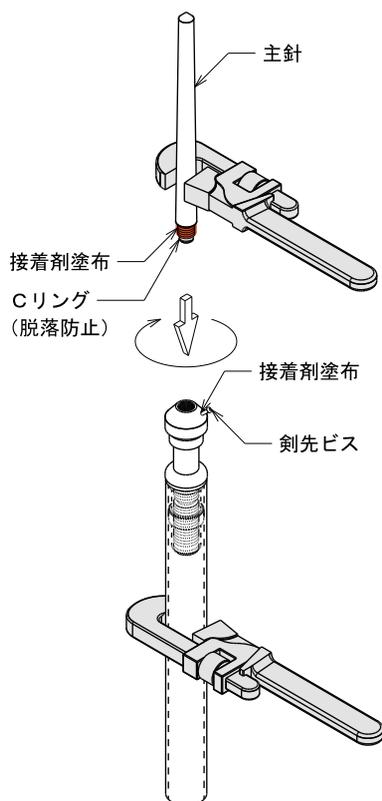
番号	名 称
1	突針 JIS中型
2	支持管 鋼管(STK400)溶融亜鉛めっき 自立型
3	支持管取付台 コンクリート用 (基礎は建築工事とする)
4	アルミ線 2.0×19 アルミ線取付金物 A-コンクリート用 B-床用
5	T型接続端子
6	水切端子
7	鋼導線 2.0×13 埋込配管(PF22)
8	鉄筋用接続端子(主筋2条以上に溶接)
9	接地端子ボックス 埋込用 2端子 PC及び標示板付
10	鋼板 1.5t×900×900(接地極)
11	測定用リード線 IV 5.5mm ²
12	測定用アース棒 14φ×300



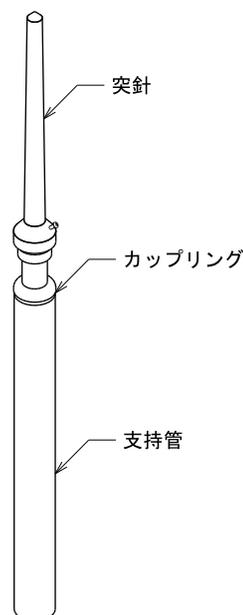
ポイント

- ・Cリングに接着剤を塗布しない
- ・突針が支持管と一直線になるように取り付ける

(1) 突針胴体をカップリングにCリングまでねじ込み、接着剤を塗布し、更にねじ込む。



(2) 突針胴体の剣先ビスを緩め、主針をCリングまでねじ込み、接着剤を塗布する。工具で強く締め付けた後、剣先ビスをねじ込む。



01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

雑材料

06

附属資料

07

施工参考例

01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

雑材料

06

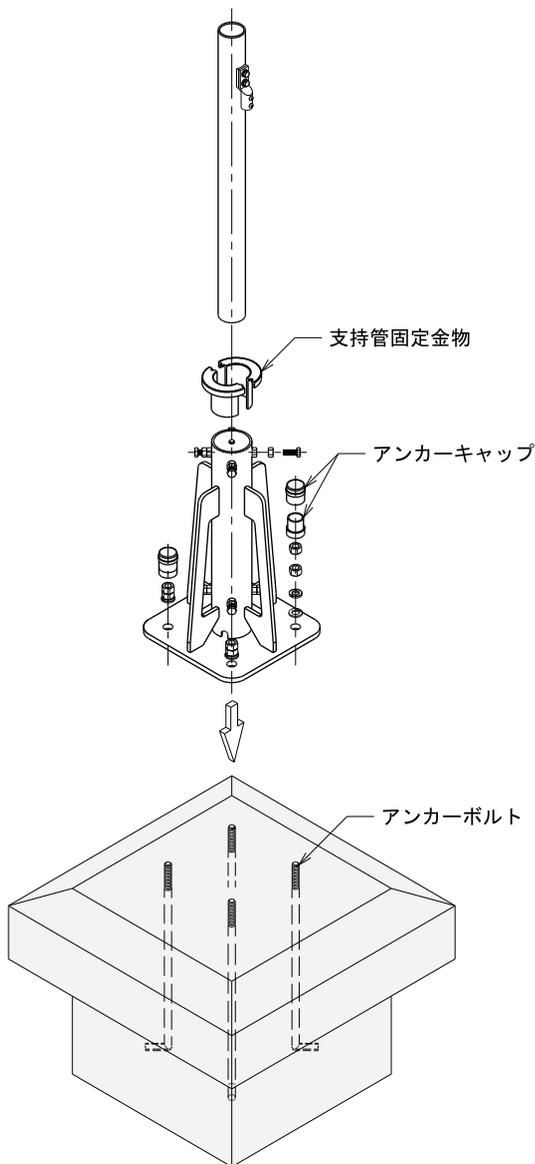
附属資料

07

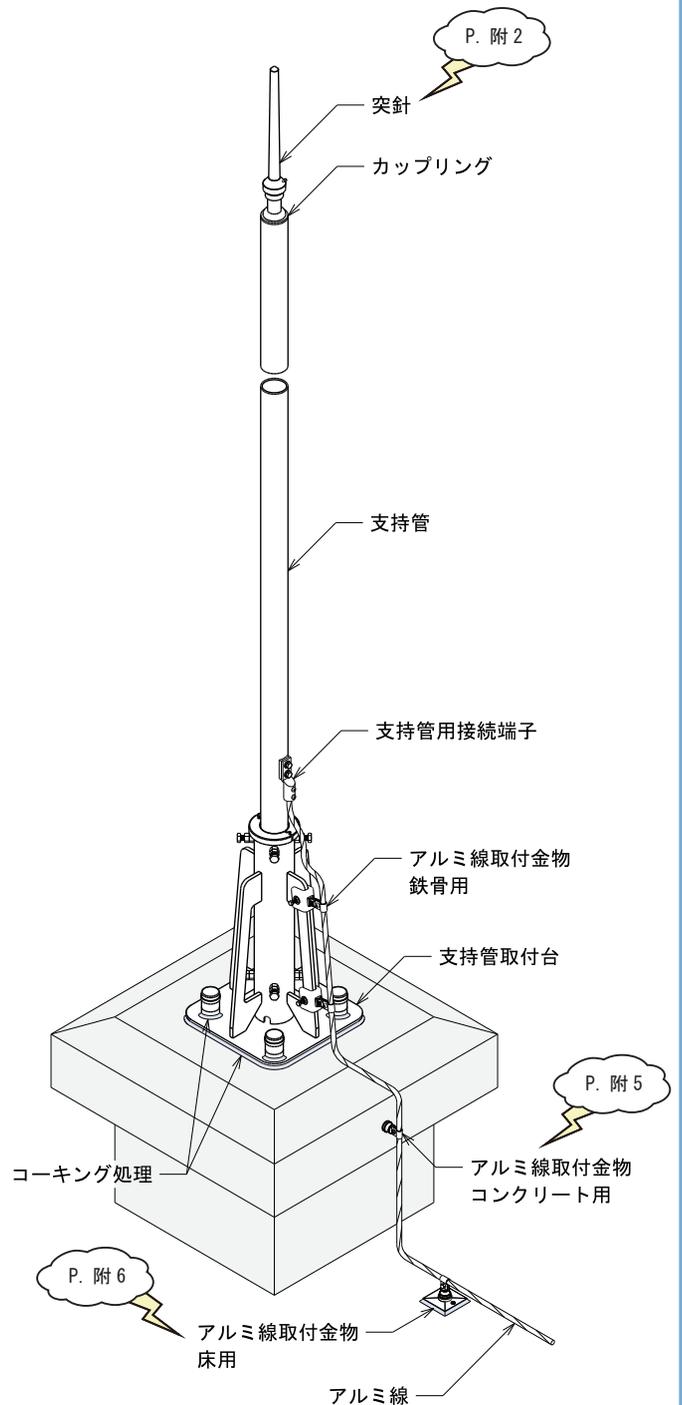
施工参考例

ポイント

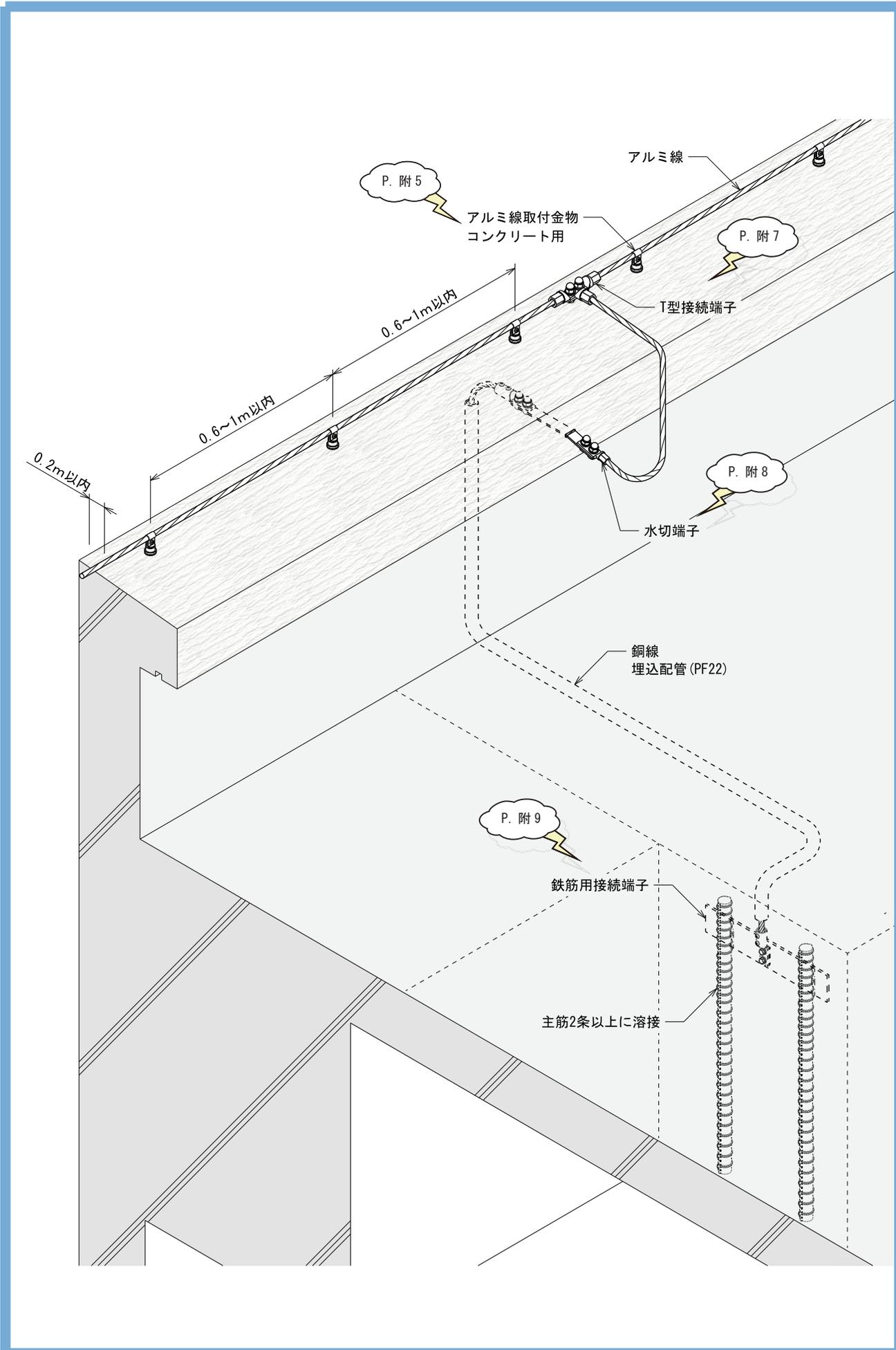
- ・基礎の天端が水平になっているか確認する
- ・基礎コンクリートはよく乾いているか確認する



(1) 基礎コンクリート打設後、アンカーピッチを確認する。



(2) 取付台の垂直を水平器で確認する。
アンカーキャップの内部、外部にコーキング処理を行う。
取付台のベース周りにコーキング処理を行う。



01	突針
	カップリング
	支持管
	支持管取付金物
	支持管取付台
	支線
02	銅線
	銅帯
03	アルミ線
	アルミ帯
04	保護管
	端子ボックス
05	接地極
	標示板
	雑材料
06	附属資料
07	施工参考例

01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

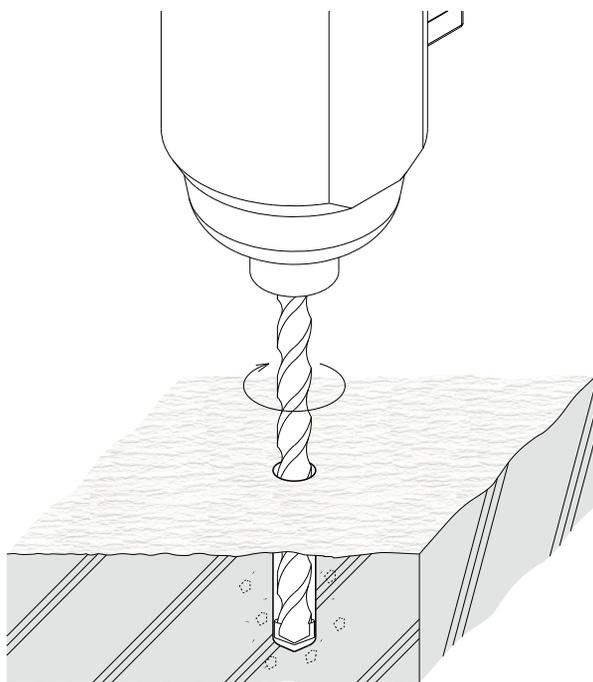
雑材料

06

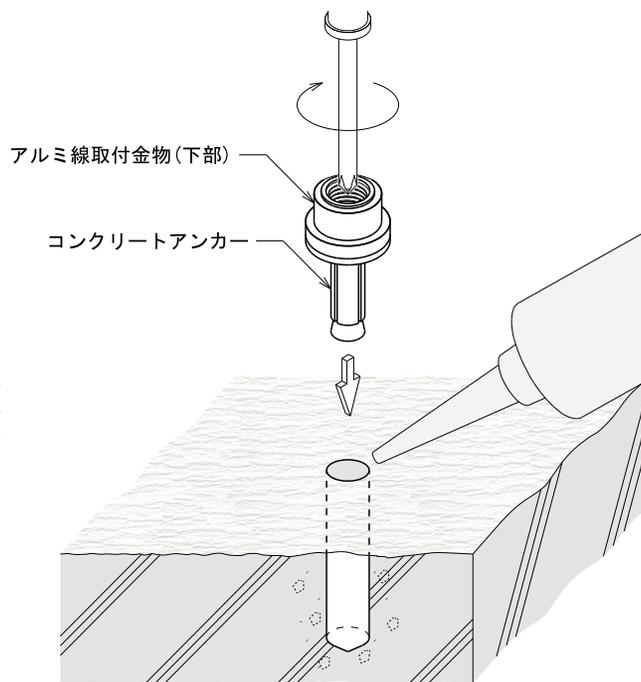
附属資料

07

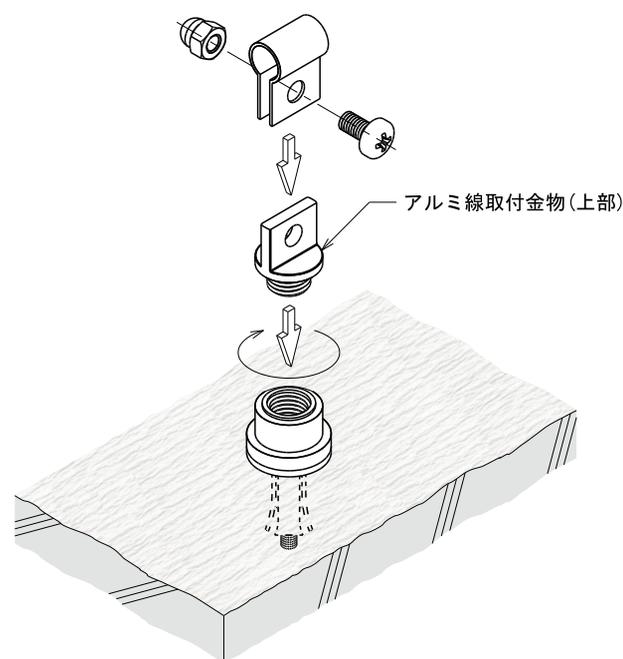
施工参考例



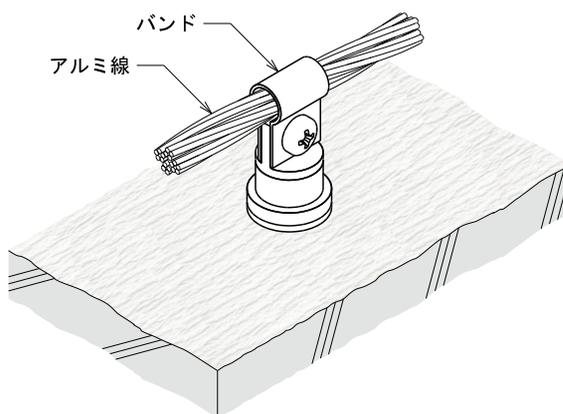
(1) 棟上導体は、被保護物の外周より内側0.2m以内に
取り付ける。
取り付け間隔は、水平0.6~1m以内とする。
建築仕上げ完了後、取り付け位置に下穴を開ける。



(2) ダストポンプ等を使用して孔内の切粉を除去する。
下穴にコーキング剤を塗り付け、コンクリートアンカー
により、アルミ線取付金物(下部)を取り付ける。



(3) アルミ線取付金物(上部)を取り付ける。



(4) アルミ線をバンドにて固定する。

ポイント

- ・ 墨出しは正確に行う
- ・ 下穴は垂直に穿孔する

01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

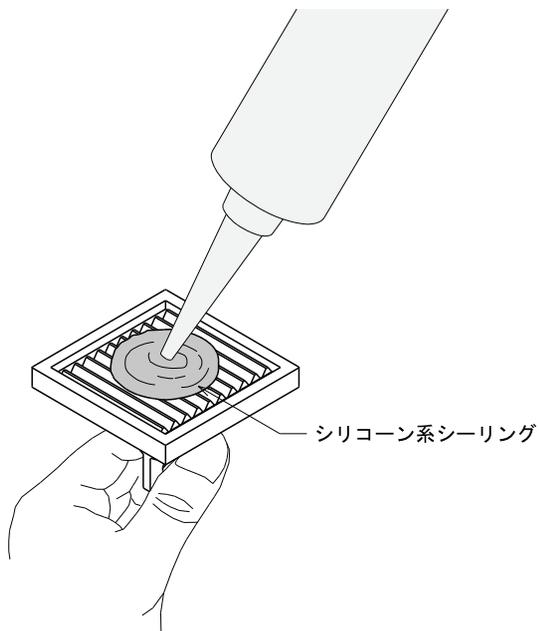
雑材料

06

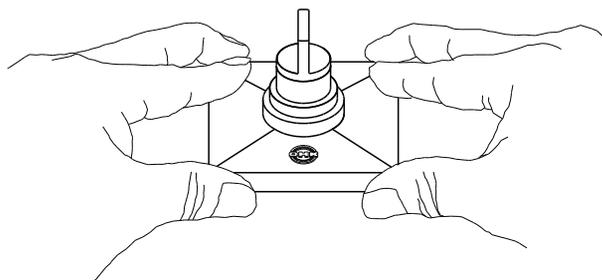
附属資料

07

施工参考例



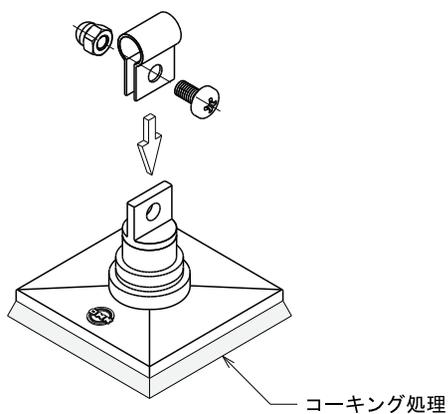
- (1) 取り付け間隔は、水平0.6~1m以内とする。
取り付け面の油・水分等を取り除く。
ABS樹脂の底面に接着剤を塗布する。



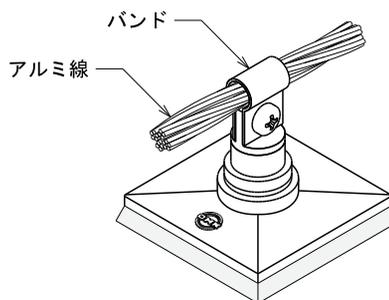
- (2) 取り付け面と底面の溝に、接着剤がしっかりと馴染むよう、押さえる。

ポイント

- ・床はよく乾いているか確認する
- ・金物は一直線に並んでいるか確認する



- (3) 外周部にコーキング処理を行う。



- (4) アルミ線をバンドにて固定する。
配線作業は、金物接着後、1~2日の養生期間を空けてから施工する。

01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

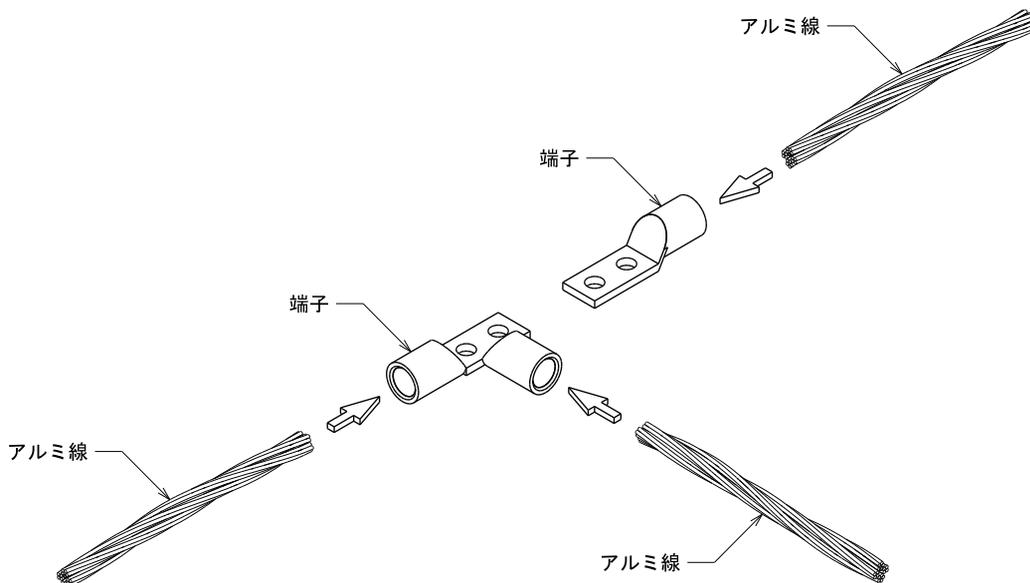
雑材料

06

附属資料

07

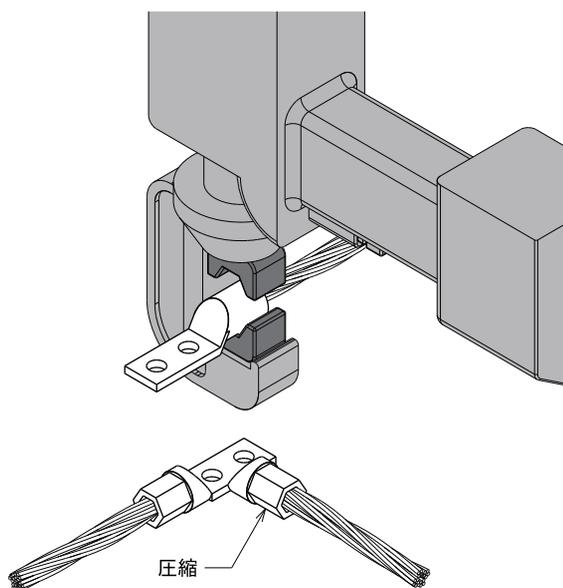
施工参考例



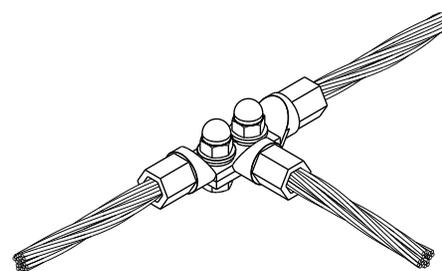
(1) アルミ線の分岐方位を確認する。
端子挿入の長さを考慮し、アルミ線を切断する。

ポイント

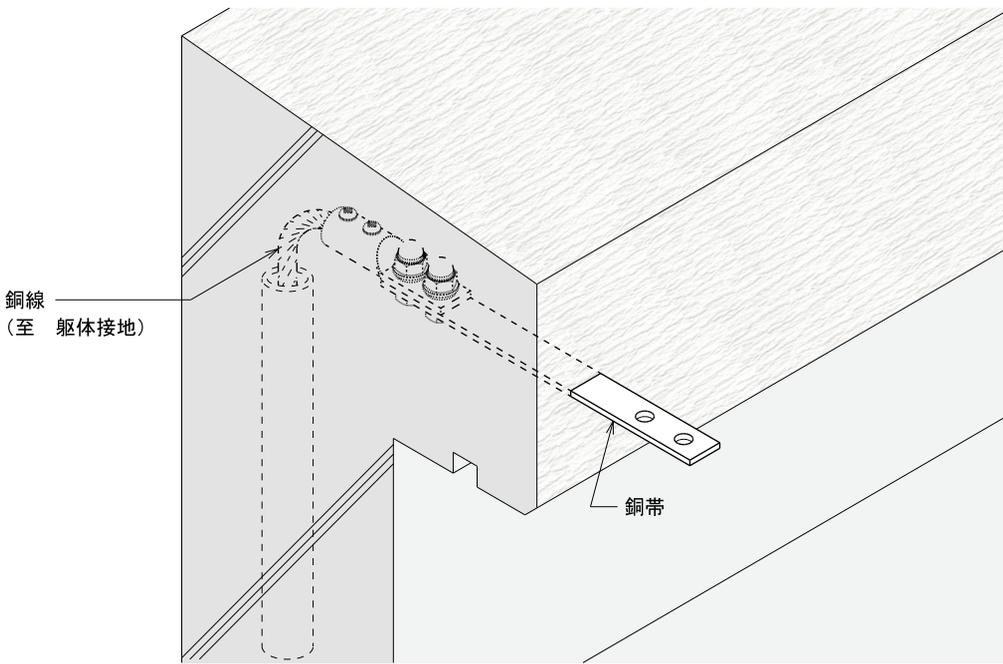
- ・取り付け長さをよく考慮し、アルミ線の切断を行う
- ・端子のボルトの緩みの有無を確認する



(2) 切断したアルミ線を端子に挿入し、専用の工具で圧縮する。
圧縮する際、端子からアルミ線が抜けないように注意する。



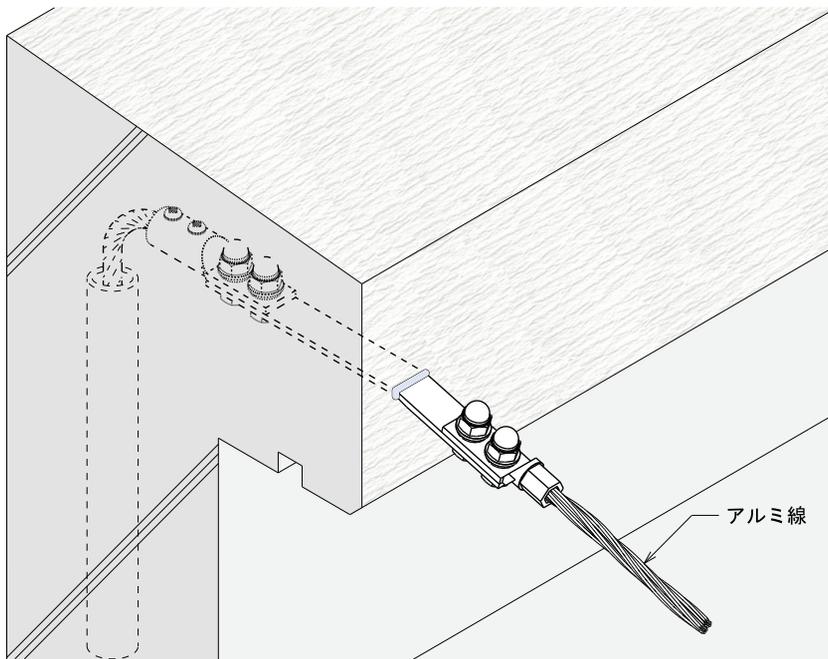
(3) 端子をボルトで固定する。



(1) 躯体接地からの銅線に接続端子を半田ロー付けする。
取り付け位置の型枠に、銅帯取り出し用の孔を開ける。

ポイント

・銅帯の取り出し長さ、角度に注意する



(2) 取り出した銅帯の角度を水平より少し下向きとする。
接続端子にアルミ線を専用の工具で圧縮する。
銅帯に端子を固定する。

01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

雑材料

06

附属資料

07

施工参考例

01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

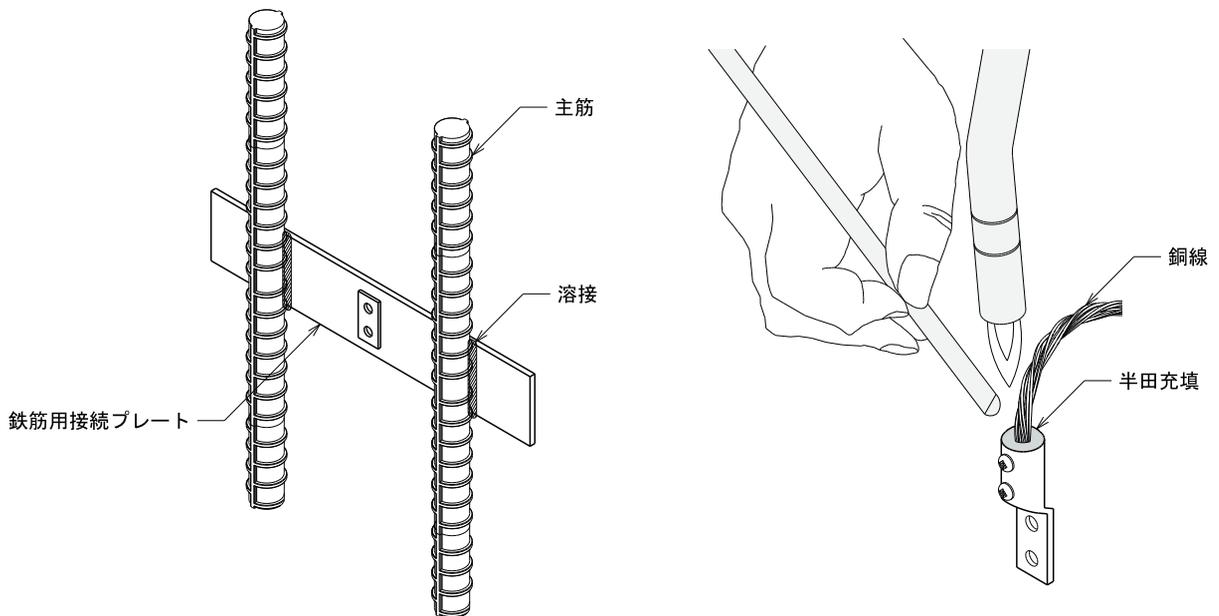
雑材料

06

附属資料

07

施工参考例

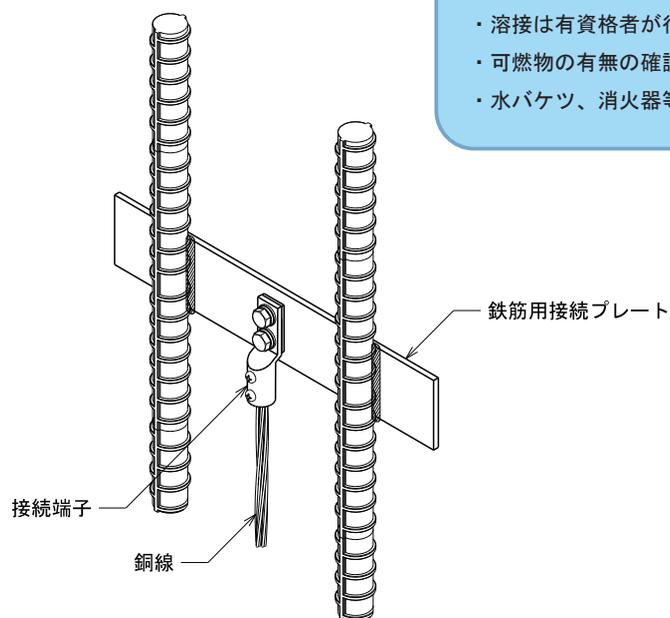


(1) 主筋2条に鉄筋用接続プレートを溶接する。
溶接後、スラグを除去する。

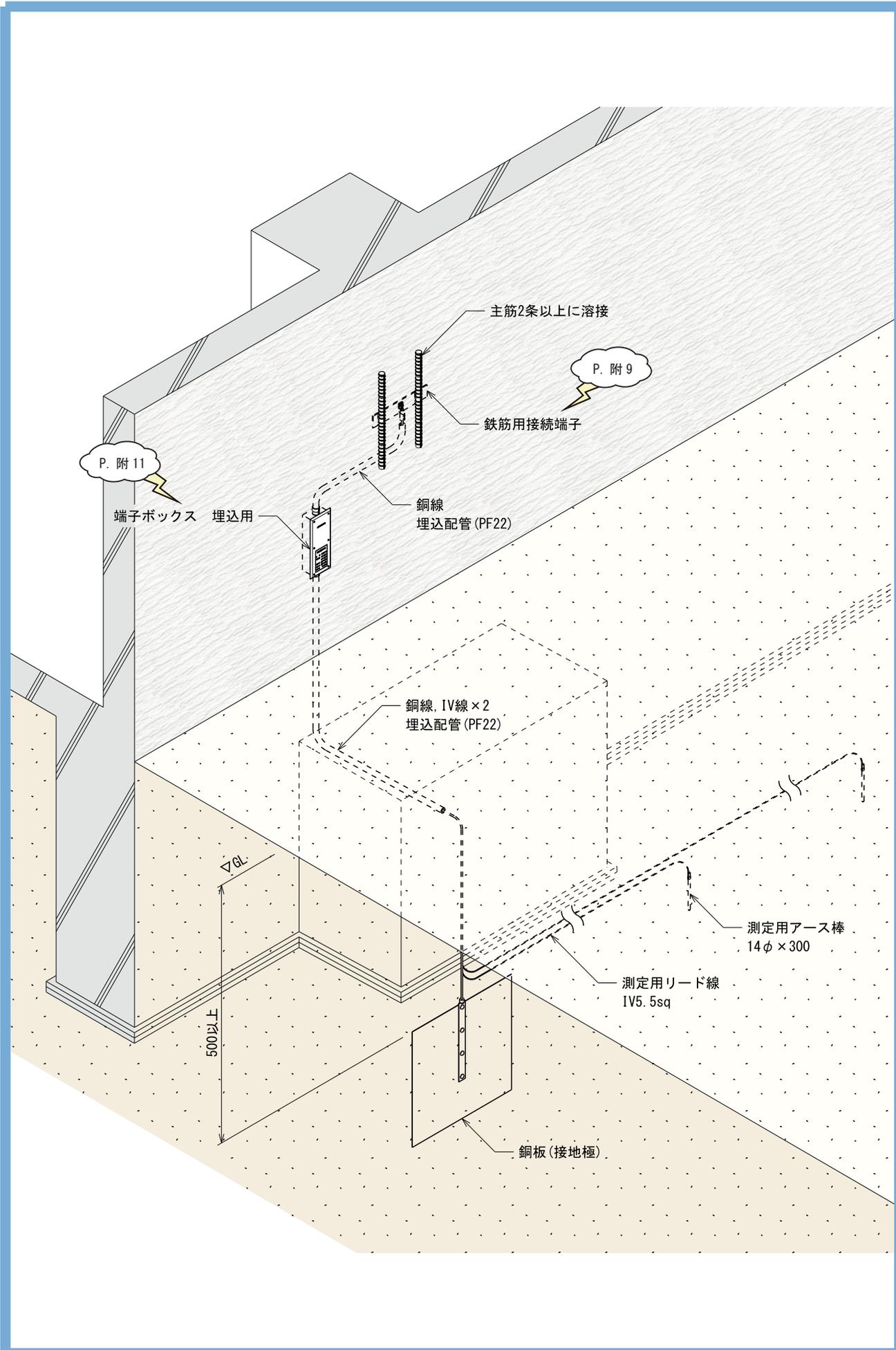
(2) 接続端子に銅線を押し込め、仮固定し、
半田ロー付けする。
作業終了後、接合部の汚れを除去する。

ポイント

- ・溶接は有資格者が行う
- ・可燃物の有無の確認を怠らない
- ・水バケツ、消火器等を設置する



(3) 鉄筋用接続プレートに接続端子をボルトにて固定する。
半田付け部の不良がないか確認する。



01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

雑材料

06

附属資料

07

施工参考例

01

突針

カップリング

支持管

支持管
取付金物

支持管
取付台

支線

02

銅線

銅帯

03

アルミ線

アルミ帯

04

保護管

端子ボックス

05

接地極

標示板

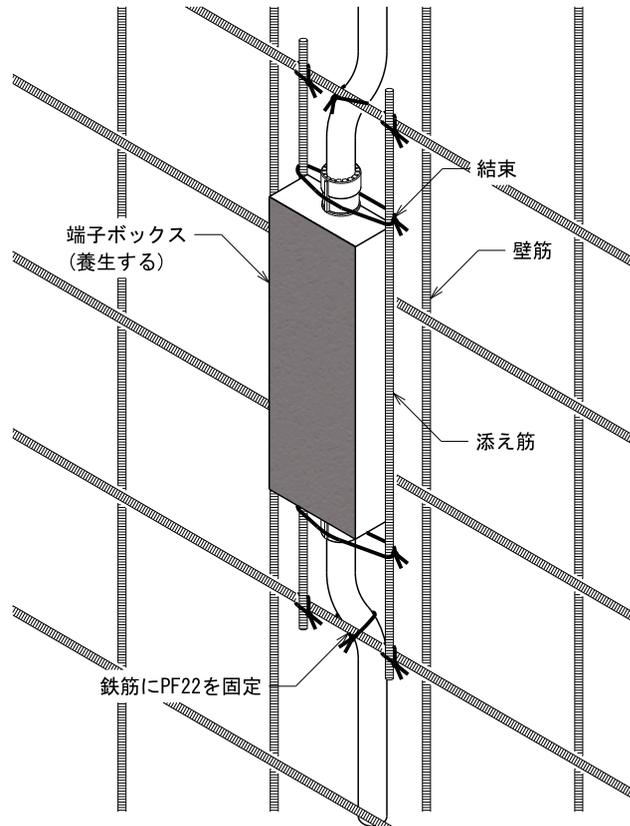
雑材料

06

附属資料

07

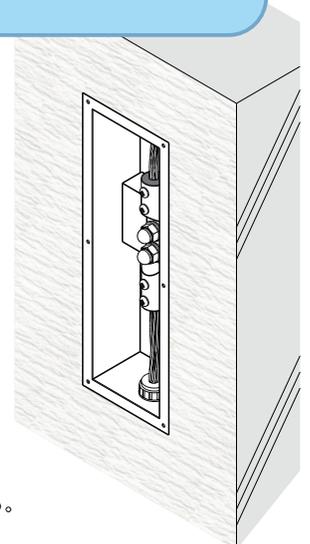
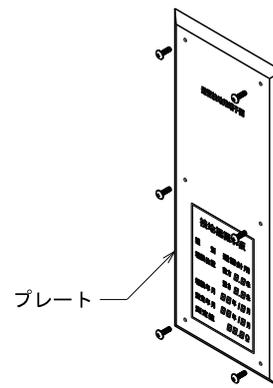
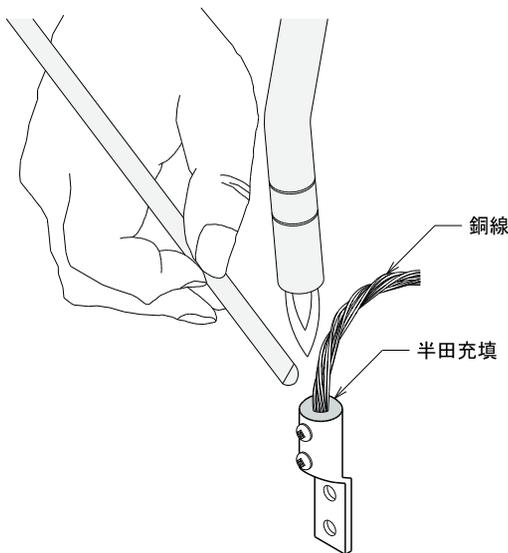
施工参考例



- (1) 壁筋完了後に取り付けを行う。
端子ボックス上部、及び下部にコネクタを取り付け、PF22を接続し、銅線を引き入れる。
ボックスの両サイドに鉄筋を添え、ボックスを固定する。
ボックス内にコンクリート等が入らないよう、養生する。

ポイント

- ・ボックスの出面を確認する
- ・ボックスの水平・垂直を確認する



- (2) 建築仕上げ完了後、接続端子に銅線を半田ロー付けする。
接続端子と測定用端子を、端子ボックス内に固定する。
- (3) ビスでプレートを取り付け。